

第23回県政知事懇談

# 湯崎英彦の地域の宝 チャレンジ・トーク

と き 平成25年7月20日(土)

ところ 紙屋町地下街シャレオ中央広場

広 島 県

目 次 頁

開 会 .....	1
知事挨拶 .....	1
事例発表者紹介 .....	2
事例発表① .....	2
事例発表② .....	8
事例発表③ .....	13
事例発表④ .....	16
閉 会 .....	20

## 開 会

(司会 (槇埜))

皆さん、こんにちは。(「こんにちは」の声あり) 大変長らくお待たせいたしました。

ただ今から「湯崎英彦の地域の宝チャレンジトーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の槇埜と申します。

本日は、チャレンジに向けて、元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろしく  
お願いいたします。(拍手)

## 知事挨拶

(司 会)

それでははじめに、湯崎英彦広島県知事をご挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。(「こんにちは」の声あり) 今日は本当に暑いですね。今、県庁からここまで歩いてきたのですけれども、真夏の日がかんかんと照りつける中、こうやってお集まりいただきましてありがとうございます。家から出てこういう涼しいところにお集まりいただくと、その分、家の電気を切って省エネにもなりますので、是非これからもまたこういうイベントに参加をいただければと思います。

おかげさまで、この県政知事懇談会をずっと続けてきまして、これまで県内を3回ほどぐるぐる回ってきました。実は3巡目の最後の会がここ広島市でございます。

平成21年から始めましたが、これまでに延べ456人の方に発表いただき、来場者も6千人を超えるという形で進めてまいりました。これも皆さんの積極的なご参加のおかげだと思っております。

いろいろなご意見をいただいて、県政の味噌樽と私はずっと言ってきましたけれども、いろいろなご意見を味噌樽に詰めて、だんだんと、ぷーんと、いいにおいがして味噌が発酵してまいりました。なかなかいい味付けの味噌ができたのではないかと感じております。

毎回少しずつ趣向が違うのですけれども、今回は、それぞれの地域でいろいろなチャレンジ、いろいろな挑戦をしている皆さんのお話をお伺いして、それをみんなで共有しよう。今風に言うと、みんなで「いいね！」ボタンを押そうと、そんな感じの会になっております。

これから4組の皆さんに発表いただきますけれども、それをお聞きいただき、皆さんも元気をいただいて、明日からの活動につなげていただければと思っております。

これから約70分強の時間になると思いますが、どうぞ最後までお付き合いいただければ

と思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。(拍手)

(司 会)

湯崎知事，ありがとうございました。湯崎知事，壇上のお席にお移りください。

## 事例発表者紹介

(司 会)

それでは，本日の事例発表者の皆さんをご紹介いたします。発表者の皆さんは壇上にお上がりください。右側から順にご紹介してまいります。

井口・鈴が峰地区の歴史の発掘と新しい魅力づくりに取り組む「井口・鈴が峰魅力づくり委員会」会長の楠勲二さん。(拍手)委員の川島孝雄さん。(拍手)兼重雅宏さんです。(拍手)

続きまして，佐伯区全体を植物公園にすることを目指し，挑戦されている「はなみどり」会長の石田邦夫さんと副会長の六拾部忠紀さんです。(拍手)

弁護士と高校生による合同演劇に取り組んでおられる広島市立舟入高校演劇部の佐々木愛さん，藤井彩夏さん，木村望さん，広島市立沼田高校演劇部の本荘寿乃さん，樽本紗妃さんの5名です。(拍手)前のほうに出てください。ありがとうございます。

地域と連携したボランティア活動を行っておられる広島市立庚午中学校生徒会の山本匠研さん，橋本真子さん，木本貴翔さん，小林未南さんです。(拍手)

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様は，いったんお席のほうにお戻りください。

ここからは湯崎知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは，湯崎知事，どうぞよろしく願いいたします。

## 事例発表

### 事例発表①

(知 事)

どうぞよろしく願いします。今日事例発表していただきます4組の皆さんは，先ほども少し触れましたように，地域，職場，あるいは学校でそれぞれ積極的に活動していろいろな挑戦をされている方々です。

最初に発表いただきますのは，井口・鈴が峰魅力づくり委員会の会長楠勲二さん，委員の

川島孝雄さん，兼重雅宏さんです。どうぞ前にお願ひいたします。

皆さんを改めてご紹介させていただきます。この「井口・鈴が峰魅力づくり委員会」ですが，井口・鈴が峰は皆さんおわかりだと思ひますけれども，西区で，佐伯区との境界にある地域です。この地域は江戸時代の幹線道路であります西国街道，昔の山陽道で人が歩いてきた道です。その西国街道が通っていて，当時を偲ばせる歴史的な建造物が残っています。

地域散策マップをつくったり，ボランティアガイドをされたり，あるいは地元小学校で歴史講座の開催をされるなど，歴史的な遺産を活用したまちづくりに取り組んでいらっしゃいます。

今日の発表のテーマは，「井口・鈴が峰地区の魅力づくり～鈴峰石碑の復元～」です。それでは，楠さん，川島さん，兼重さん，どうぞよろしくお願ひいたします。

#### （事例発表者（川島））

それでは早速始めさせていただきます。

これは，広島市の西，商工センターの北にそびえる標高 312 メートルの山，鈴ヶ峰です。市民に親しまれている山です。その頂上から東の尾根を少し下ったところに大きな石碑が市内を見下ろしております。この石碑は今から 115 年前に建てられたもので，石碑の裏側には明治 31 年 1 月，それに関わりのあった 58 名の方の名前が刻まれています。

その中心人物は，当時，草津村の割庄屋であった小泉甚右衛門さんで，その子孫は草津八幡宮の下にある造り酒屋の小泉本店につながっています。

石碑に書かれている「鈴峰」という字は，広島藩最後の藩主・浅野長勲公が書かれたものです。

さて，広島城が建てられたのは，今から 400 年以上前の豊臣秀吉の時代です。太田川の中州に毛利輝元が城をつくり，吉田城から移ってきました。関ヶ原の戦いの後は，福島正則が藩主となり，さらに干拓を進めていきました。

広島城ができてから 100 年余り後の 1701 年からは，浅野家が藩主を務め，明治維新の後，1871 年の廃藩置県で 12 代目の浅野長勲公は藩主を退きました。

その後は中央政界で要職に就き，昭和 12 年，94 歳の長寿を全うされています。

さて，この石碑は，建てられた 7 年後，芸予地震に見舞われています。広島は震度 5 から 6 を記録したそうです。それから 95 年後の 2000 年，平成 12 年 10 月，震度 4 の鳥取西部地震にも耐えておりました。その 5 ヶ月後，2001 年，平成 13 年 3 月 24 日，午後 3 時 27 分 55 秒，安芸灘を震源とした芸予地震が中四国一帯を揺らしました。西区の震度は 5 強でした。この地震で石碑はついに倒れてしまったのです。

当時，この地震を市内で体験した人が，電柱も電線も揺れていた。道もうねっているように感じたと話しておりました。シャレオは 18 日後の 4 月 11 日，何事もなく予定どおりグラ

ンドオープンしております。

さて、石碑は本当にこの地震で倒れたのでしょうか。鈴が峰町の田中繁さんという方が平成13年2月20日に撮影された写真です。これは鳥取西部地震のおよそ4ヵ月後、芸予地震のおよそ1ヵ月前のことになります。芸予地震のとき、田中さんは呉にいたそうです。4日後の3月28日、目印の青い帽子を置いてこの写真を撮りました。この2枚の写真によって、石碑は芸予地震によって倒れたと実証されたわけであります。

さて、鈴が峰の中腹は40年ほど前から開発が進んでおりまして、山を削った土砂を海に運んで、山側の鈴が峰団地と海側の商工センターという双子の団地を生み出しております。

5年前、800年の歴史を持つ井口と、わずか30年ばかりの鈴が峰周辺地域の人たちが、ともに地域の新しい魅力をつくっていかうと集まりました。月1回会合を重ね、鈴が峰地区で唯一の歴史遺産である地震で倒れた石碑を復元しようと考えたわけです。住民の関心を集めていかうと、平成23年3月、石碑のある場所から風船を上げました。アルパークなど周辺から確認情報が寄せられました。鈴が峰公民館での節分イベントでは、倒れた石碑を題材にした絵本を発表し、子どもたちにも関心を引き起こしております。

森の再生と自然保護を図るためボランティア活動を展開している「もりメイト倶楽部 Hiroshima」からは、草刈りや枝打ちの指導を受けました。

昨年6月、西区の魅力と活力向上推進事業補助金に承認され、復元活動は本格的にスタートいたしました。

石碑は高さ1.7メートル、幅1.5メートル、重さは推定で1.7トンです。業者と打ち合わせて、工事の時期は10月が望ましいということになりました。この間に、地域住民の方に募金呼びかけたところ、およそ400名の方から63万円を超える募金をいただいております。

さて、山の上の工事は重機を使えません。急な山道を往復して運んだのは、20kgの支柱や25kgの発電機など200kgにも及んだそうです。チェンブロックで寝ている石碑をまず起こし、それから三脚を横に移動させて、立ったものを少しずつ斜め上に上げていく。この過程を繰り返しながら台座へ据えていきました。これまでは宮島の鳥居のように自分の重さで立っていたのですが、今度は鉄の棒を入れて、さらにセメントで固めたので、もう倒れることはないと思います。

こうして昨年の10月末、3日間の作業で復元され、中国新聞には「鈴が峰のシンボルに石碑復元」と報道されました。

この写真の左下、丸で囲った部分は、石が白く見えますが、その周りにはこけがついたりして黒ずんでいました。これをワイヤーブラシで磨きますと、したたるほどの汚れが流れ出てきました。そして、115年前に刻まれた小泉甚右衛門という文字も浮かび上がってきました。さらに、周辺の木を伐採し、大きな木はベンチにつくりかえました。小枝は、今年1月、鈴が峰小学校の6年生が運び下ろして、とんど祭りに使いました。

石碑の周辺整備は3回行われ、除幕式に間に合うことができたのです。4月7日日曜日、

この日は毎年行われている鈴が峰登山の日で、およそ 80 名の方が参加してくださいました。この日に併せて耐久性のある説明板も設置いたしました。地元の西広島タイムスにこの日の模様が詳しく紹介されました。

この記事を見た人が「4月19日（金）晴れ、本日付けの西広島タイムスに、転倒していた石碑が修復されたとの記事が掲載されていたので、早速視察に出かけてみました」と、インターネットで紹介してくれました。この方はお手軽登山と題して、登山ルートに始まり、途中の景色も加えて、石碑を紹介してくれました。

2年目となる今年度は、まず、5月26日の日曜日から石碑の周辺整備を行い、43名ものボランティアが参加してくれました。また、石碑の裏に掘られている文字を解説していただき、新しい説明板もつくることにしております。こうして鈴が峰に新しい観光名所が復元・整備されております。

さて、この夏、鈴が峰町が誇りとする1人の若者が世界に挑戦します。もうご存じだと思いますが、昨年ロンドンオリンピックで活躍した山縣亮太選手です。鈴が峰町のガーデンハウスに住み、鈴が峰小学校を卒業して、修道中学・高校を経て、現在、慶応大学の2年生です。8月10日から始まる世界陸上モスクワ大会の100メートルで、日本人初の9秒台の記録も期待されております。

鈴が峰の復元された石碑と世界に羽ばたく山縣亮太、ともに地域に活力を呼び起こしております。どうぞ皆さん、双方をご支援のほどよろしく願いいたします。どうも皆さんありがとうございました。（拍手）

#### （知 事）

どうもありがとうございました。井口・鈴が峰魅力づくり委員会、井口地区と鈴が峰地区と一緒に活動されているということですが、ちょっとお話の中で出てきたのですけれども、この石碑の再建がきっかけで一緒に活動することになったのですか。

#### （事例発表者（楠））

委員会の世話をしております楠です。もともと井口・鈴が峰魅力づくり委員会というのが平成19年から、最初は魅力づくりではありませんで、名前はどんどん変わっていきましたが、19年をスタートとして活動しております。この石碑修復は、平成24年度の魅力づくり委員会の事業として実施して、今、発表があったとおりです。

#### （知 事）

ありがとうございます。そうすると、井口地域は、団地の新しいところもありますが、もともと結構古い地域で、鈴が峰は比較的新しいということ、両地域と一緒にやろうというふうになったきっかけはどんなところだったのでしょうか。井口だけとか、鈴が峰だけじゃ

なくて、二つが一緒にやろうとなったきっかけ。

(楠)

もともと鈴が峰町というのは井口の中にあっただのですが、山でしたから、何も建っていないなくて、今の団地ができてから、もともと井口だからということで一緒にスタートしたわけです。それが始めて、3年ぐらい前から、もっと前からだったと思いますが、一緒にやっております。

(川島)

井口と草津はともに800年とか1000年という歴史を誇っているのですが、鈴が峰の中腹にある団地は新しいものですから、一緒に何かやろうとすれば、倒れた石碑を起こすという意味では一致協力できたということで、3年前にテーマになったのではないかと思います。

(知事)

なるほど。ありがとうございます。もともと一緒だったけれども、新しい団地は、まさに新しい人たちばかりで、活動としては一緒に始めていたんですけども、これがまたいい機会になったということでしょうか。

(楠)

そうです。

(知事)

私も井口に住んでいたもので、身近なところにいろいろな歴史が眠っているものですね。

(楠)

はい。

(知事)

この鈴が峰の石碑も、新聞で倒れたのを直したというのを見たときに私は初めて知ったのですけれども、詳しく見ると、浅野公が揮毫されたということで、いろいろなものが隠れているなと思います。いろいろやっていると、新しい発見というのはいまだにあるものなのですか。

(事例発表者(兼重))

鈴が峰町はできて40年弱ですが、いま申しましたように井口・草津、両地区とも800年、1000年の歴史があるところです。大分発掘されているのですが、まだまだ知られていないものはあると思います。この石碑も、私が鈴が峰に変わって、山に登ってみて、ここへ石碑があるんだなという程度でしたが、まさかこの揮毫が浅野の最後の殿様の書だとは気がつかなかったということで、まだまだ発掘すれば出てくる可能性は大いにあると思います。

#### (知 事)

浅野公というのは、安芸の殿様ですね。広島藩を治めていたという意味では、県知事の前任みたいな位置づけになりますが、その最後の浅野公が、実は昭和まで生きられた最後の大名、殿様であったというのも、私は今日初めて知ったのですけれども、そういう意味では、本当に地域の中にいっぱい知られていない、でも、おもしろいことがたくさんあると改めて感じました。

今、この周囲に「おいしい！広島県」のポスターをいろいろ貼らせていただいているのですけれども、この「おいしい！広島県」も、広島県にはいろいろなものがあるんだけれども、知られていないのが「おいしい！」ということで「おいしい！広島県」になっています。そういう意味では、その地域版を皆さんにやっていただいているのではないかと思います。地域には、その地域のおもしろいこと、あるいはすてきなことがたくさんあるけれども、それが知られていなかったり、発掘されていなかったり、忘れられていて、「おいしい！」と。それを今発掘いただいて、広めていただいているのがこの魅力づくり委員会の皆様の活動かなと思います。それぞれの地域でそうやっていろいろなものが埋もれていると思うのですけれども、それをこうやって発掘して、しかも、発掘だけではなくて、それを皆さんに知らしめるといふ活動もしていただいて、パンフレットをつくったり、いろいろなことをしていただいているわけですけれども。

#### (川 島)

知事、我々委員は70歳以上がほとんどだと思います。70歳以上の者でも、一緒にやれば何かできるので、次々と次の世代の人が地域起こしをやってくれたらいいなと思いますね。

#### (知 事)

そうですね。その輪がだんだんと広がっていくのではないかと私は思いますけれども、引き続き地域のいろいろなすばらしいものを発掘していただければというふうに思います。

このすばらしい井口と鈴が峰の宝をご紹介いただきました井口・鈴が峰魅力づくり委員会の4人の皆様方にもう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

## 事例発表②

### (知 事)

それでは、次に進んでいきたいと思えます。次の事例発表は、佐伯区です。僕は今、中区に住んでいますけれども、その前は井口に住んでいて、育ったのは佐伯区なので、今回はやたら地元が出てくるなという感じがしておりますけれども、続いての発表は、佐伯区のまちづくり推進団体「はなみどり」会長の石田邦夫さん、副会長の六拾部忠紀さんをお願いしたいと思います。

お二人が活動されていらっしゃる「はなみどり」は、佐伯区全体を植物公園にしようということを目指して、広島市植物公園の協力のもとで、住民の緑化意識を高めながら、まちを花いっぱい・緑いっばいにしていこうという活動をされていらっしゃいます。

JR五日市駅の北口には、四季折々の花を植えた樽鉢を設置して、通りがかる人々の目を引いているということです。

今日の発表のテーマは、「佐伯区全体を植物公園にすることを目指した『街づくり、人づくり、地域づくり』」です。

それでは、石田さん、六拾部さん、よろしくお願ひいたします。

### (事例発表者 (石田))

皆さん、こんにちは。よろしくお願ひいたします。(拍手)

佐伯区全体を植物園化にするということで取り組んでおります。街づくり、人づくり、そして地域づくりということで、「はなみどり」という名前をつけております。

この「はなみどり」は、平成24年5月、佐伯区百人委員会に参加する有志の皆さんでつくった会でございます。花と緑いっばいのまちづくりをするという推進団体です。そして、ここにも掲げておりますように、花と緑いっばいの魅力ある佐伯区づくり、誰でも、どなたでも自由に参加していただける。そしてボランティア活動であるということ。アドバイザーとしまして、広島市の植物公園にお願いしております。

これまでの活動としましては、先ほど知事さんのほうからもお話いただきましたように、こういったウイスキー樽を利用させていただき、季節に準じた花を植えております。特にJR五日市駅北口、行き交う人に楽しんでいただきたいということで、今は赤い花が咲いていると思えますが、これは先般植えました。以前植えて主木になっているのはキンモクセイという木です。秋に花を咲かせてくれます。今はこういった状況でさせていただいております。植え込みの風景等も掲げております。植栽、こういったものをコイン通り、皆さんおなじみの造幣局の通りでございまして、南北1400メートルあるわけでございますが、商店街の皆さんのお宅に協力していただきまして、樽鉢を10個ほど設置させていただいております。

それと同時に、佐伯区のスポーツセンターの花壇等が非常に草もぐれだったので、何とか

きれいにしたいということで取り組んだのが花植えでございます。これもメンバーの皆さんと一緒に推進しております。

私たちの活動を通じて、花づくり、人づくり、街づくりにつなげていくことが一番の大きなテーマでございます。先般、これは県の埋め立て地でございますが、ジャカランダという花を植えさせていただいております。すでにテレビ、新聞等でも報道があったと思いますが、冬の寒さに弱い花でございます。今年の冬をどのようにして乗り越えたらいいだろうかと、今、懸命に取り組んでいるところでございます。あまり見たことがないと思いますが、みずとりの浜公園一帯に植えておりますので、もし五日市にお見えになったときには見ていただきたいと思っております。

さらには、佐伯区の北になりますが、河内地区のごみの収集場所、私たちはゴミステーションと呼んでおりますが、ここに花を植えて、きれいに飾りたいという、これも個人の私有地へ設置させていただいております。こういったボランティアと一緒にさせていただいておりますのが、ごみ収集場所に花を飾ってきれいにしようという取組でございます。

ここに掲げておりますのが、先ほどから申しております「はなみどり」の街づくり、人づくり、地域づくりということで、地域社会と取り組み、どなたでも参加していただける。緑が増える。そして、健康である。生きがいであるということが私たちのモットーでございます。交流して助け合うことで、明るく、元気で、多くの人々が地域になじんでいただければという気持ちで支えていただいております。

写真にありますように、一部、植物園内の写真とか、あるいは他の地区のきれいな写真も提供させていただいております。

次に、先ほどから申しておりますように、佐伯区全体を植物園化したいという大きなテーマでございます。と申しますのも、やはり広島市でも唯一の植物園、こういった植物園の中だけでなく公共施設、そういったところにも、花を通して地域を明るくする。花を育てる。心優しく、豊かなまちになるというのが願いでございます。是非皆様方の周りでもお花を飾っていただければ、本当の植物園化になるのではないかとということで運動を続けさせていただいております。

この佐伯区全体を植物公園化にしますために、それぞれのテーマを設けております。公共施設の植物公園化。あるいは、後に発表させていただきますように、区のシンボルになる花、あるいは木、こういったのも区役所と一緒に今年度の事業として取り組んでおります。また、植栽をすると同時に、回遊環境整備という形で、新名所づくり、あるいは植栽教育、こういったものを通じて、どこにでも出向いていける。私たちが講師になり、地域に出向いてお花づくりの勉強をする。そういった指導者も要請するというのが植栽教育でございます。新しく名所をつくることによって、多くの人々に佐伯区に来ていただけるのではないかとという気持ちで、こういった回遊性を設けるようにしております。

次に、ここにありますシンボルツリー、多くの植栽の実施、あるいは樹木の管理というこ

とで、先ほどちょっと触れさせていただきましたように、公共施設の植物公園化ということで、植物公園のサテライトガーデンの整備というように、少し横文字を使わせていただいておりますが、そういったいろいろなところに出向いていき、佐伯区のイメージアップを続けていきたいと思っております。

植物を見ながら回遊していくわけですから、商店街、あるいは郊外、河川、海沿いの回遊コースを企画・設定していくと、植栽をしなければならない場所の提供、あるいは費用という問題点があるかと思っております。また、皆さんがゆっくり楽しんでいただくためには、ベンチとか、トイレなどの環境整備も必要ではないかと思っておりますので、こういった大きなテーマがあるわけですが、これは私たちだけではどうにもなりません。やはり行政の力をお借りしながら進めていかなければならない大きな問題点ではないかと思っております。

そして、ここに回遊コース案として、花言葉によるパワースポットと、桜とかつつじなどの植栽スポットというように、コイン通り商店街を中心に商店街の回遊性、駅前地区であるとか、楽々園地区、こういったところの回遊性、と同時に、佐伯区には湯来という奥座敷がございます。温泉があるまちです。そして、河内、石内地区の回遊性。桜とかつつじを育てることによって、植栽スポットになるのではないかという気がしておりますので、皆さんに来ていただいて楽しめるまちにしたいと思っております。

新名所づくりとしましては、佐伯区の南の玄関口になりますように、みずとりの浜公園、ここは相当な面積がございます。東に原爆ドーム、西に宮島という二つの世界遺産の真ん中にあるこの埋め立て地を利用して、今、計画しているのが、次に出てくると思っておりますが、ジャカラダという世界三大の花でございます。今年は6本か7本、ごらんのように花が咲いておりますが、これを何とかここに育てたい。先月長崎県の小浜町に行ってまいりました。小浜町が力を入れているところでございます。雲仙市になるわけですが、その小浜というところで、冬季の養生。暖かいところの植物ですので、少し寒さに弱く、2年間失敗しております。今年が3年目になるわけでございますので、何とか冬越しができるように、今、右往左往している状況でございます。こういった管理をする上におきましても、人とか、費用とかかかるとは思いますが、これも行政、あるいは地域、そして我々が一緒になって、知恵を出し合いながらやっていきたいと思っております。

先ほど申しましたように、佐伯区でなじんでいただくためには、シンボルになる花、あるいは木を、佐伯区を発祥の地にしたいと、今、検討しているところでございます。それが決定すれば、それぞれのご家庭、あるいは公共施設などにも、そういったお花を植えていただきまして、皆さんと一緒に育てたい。そういう気持ちでございます。

また、植栽の教育をしていかないと指導ができませんので、教育指導者の派遣を植物園の専門の人に教えていただきながら、私たちが技術を学んで、そして小中学校の植育指導の充実であるとか、学校内外の植栽ボランティアによる社会交流など、人と一緒に育てていくと

いう夢を持っておりまして、そして、人と人とのつながりを持っていくというのが目的でございます。

終わりになりますけれども、ここに掲げておりますように、「Flower Power—愛と平和—」という、若い人から子ども、あるいはお年寄りまで、どなたでも愛せる花と緑のある、平和都市広島にふさわしい街づくり、人づくり、地域づくりを進めていきたいと考えておりますので、どうぞ皆様方のご協力とご支援をいただければと思います。私たちの小さな団体ではございますが、みんなで力をあわせて佐伯区を植物園化にしたいという気持ちで頑張らせていただきますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。以上でございます。ありがとうございました。(拍手)

(知 事)

石田さん、六拾部さん、ありがとうございました。この「はなみどり」ですけれども、今は何人ぐらい活動されていらっしゃるのですか。

(石 田)

実際には20名ぐらいの方でやっております。しかしながら、それぞれ地域にほかの花づくりの団体がございますので、その特性を生かして、例えば河内地区でやる場合には、その皆さんと一緒にやっているということでございますので、登録していただいているのが20名ということで、運動などに携わってくださっているのは、先般の河内などでは50人、100人と集まってくださっておりますので、そういったメンバーを入れると、もっと増えるのではないかと思います。

(知 事)

なるほど。いろいろなところと連携しながら進めていらっしゃるということですね。

よく学校などで、花運動みたいなことで周辺にお花を植えたりということはありますけれども、区全体でやるというのは、かなりの面積ですし、佐伯区全体を植物園化するというのは大きな夢ですね。

(石 田)

だから、やりがいがあると思います。といいますのも、私たちのメンバーには、各地区、湯来町、河内地区、あるいは石内地区、海老園、中央地区と、それぞれのところから来てくださっているのです、もっともっと夢を広げて進んでいきたいと思っております。

(知 事)

そういういろいろなところからご参加いただいている秘訣というか、最近住民活動を拡大

していくのに苦勞されることも多いと思うのですけれども、そうやっていろいろなところからご参加いただくというのは、特に地域が広いとまとめるのが大変だと思いますけれども、何かその秘訣というのがあるのですか。

(石 田)

やはり楽しいからできる。そして、命令はしません。みんなで知恵を出して、なんとかしたい。要するに、お子さんを育てるのと同じ気持ちで取り組みましょうということで、前向きな生き方、否定はしないというのが我々のモットーでございます。皆さんが積極的に、何を言わなくても盛んにやってくださっているのが現状でございます。

(知 事)

なるほど。地域のことを思う人が自分からする。強制もしないし、参加も自由。そういうところがいいということかもしれないですね。そういう方々は、リーダーというか、いろいろなことに積極的な方々ではないかと思えますけれども、そういう方が集まっているのだと思います。

でも、そうやって花づくりも全体で進んでいくと、先ほどの回遊をするであるとか、回遊すると、当然に疲れて食べ物を食べたり、飲み物を飲んだり、お店で何か買ったりして、経済的な効果も出てくるでしょうし、観光であるとか、あるいは人々が集まる賑わい、佐伯区造幣局の桜祭りは本当に有名で、たくさんの方がいらっしゃいますけれども、ああいうのがいろいろな形で進めば賑わいもできるし、そういう意味ではいろいろな効果がありそうですね。

(石 田)

先ほど申しましたように、お金がないからできないではなく、どうやったらできるだろうかということで、先ほど知事さんがおっしゃいますように、コイン通りでは商店街が中心になって土曜夜市というのがあります。今晚もありますけれども、私もそういったところでバザーやかき氷等の販売をさせていただき、そういった収益金であるとか、私が公民館等で講師を務めさせていただいている関係で、そういった講師料、そういったものを提供しながらお花を買ったり、そういったこともやっております。あまり金のことを言うのは好きでないものですから、貧乏が一番似合っているのではないかと考えております。

(知 事)

お金がないと、知恵が出る。そういうことですね。何とか知恵を絞ってやろうということではないかと思えます。

この夢がかなって佐伯区が植物園になるとすばらしいですね。是非これからも頑張っていただけだと思います。それでは、「はなみどり」の石田さん、六拾部さん、佐伯区の美しい

花づくり，花のまち化にご尽力されているお二人にもう一度大きな拍手をお願いしたいと思います。ありがとうございます。（拍手）

### 事例発表③

#### （知 事）

次は学生さんの発表になります。続いて発表していただきますのは，舟入高校演劇部と沼田高校演劇部の5人の皆さんです。舟入高校からは佐々木愛さんと藤井彩夏さん，木村望さん，沼田高校からは本荘寿乃さんと樽本紗妃さんに来ていただきました。

舟入高校と沼田高校の演劇部は，広島弁護士会の弁護士さんと合同で子どもを取り巻く問題をテーマに創作演劇を行っていらっしゃいます。

平成22年から始まったそうですけれども，今年で4回目です。今年はいじめをテーマにした創作演劇を上演して，子どもと周りの大人のそれぞれの葛藤や問題への向き合い方などを描かれたということです。

今日の発表のテーマは，「はばたけ！劇団ピピオ～弁護士と高校生による合同演劇の取組～」です。それでは，どうぞよろしくをお願いします。

#### 【演 劇】

木村望（小澤果音）・本荘寿乃（大野晴香）・佐々木愛（伊達祐実）・  
樽本紗妃（鈴木梨桜）・藤井彩夏（芦田舞奈）

晴香：何よみんな，祐実も梨桜もおもしろうにやっていたじゃない。果音から自分のほしい物もらったりしていたじゃない。

舞奈：でも，さすがにあれだけエスカレートしていくなんて思わなかった。どうすることもできなくて，いつのまにか私たちも一緒にいじめることになって…私たちも苦しかったのよ。

果音：いじめに加わって楽しそうにしていたのに，苦しかった？ だったらなんで先生の前では私と仲がいいふりをしたの？

祐実：それは…受験前だし…余計なことで学校から目をつけられても…ね。

舞奈：内申点とかあるし。

梨桜：私たちは晴香のまねしただけよ。晴香を怒らせても後で怖いから。晴香が先生の前で果音に優しくしたから私たちも従っただけよ。恨むなら晴香を恨んでよ。

晴香：全部私のせい？ 果音も嫌なら嫌ってはっきり言えばよかったじゃない。

舞奈：確かに。果音は最後は私たちの言うことを聞いてくれていたよね。

祐実：そうだよ。なんだかんだで、私たちと一緒に行動していたじゃない。嫌なら離れればよかったのに。

果音：はっきり嫌って言ったらやめてくれたの？ 離れたら、そっとしておいてくれたの？

梨桜：それは晴香次第よ。

祐実：晴香は怖いし。

舞奈：うん。晴香は怖い。

晴香：みんな、なんなのよ。私は果音をたたいたことなんてない。私は毎日お母さんから蹴られたりたたかれたりして…本当に痛かったんだから。

果音：たたかれるほうがまだよかった。目に見えるから…。目に見えたら周りに助けてって言えたのに…。私は、私はどこにも逃げられなかった…。教室は逃げ場のない地獄だった。(泣き崩れる)

晴香：私だってつらかった。せめて学校の中だけでは強くいたかった。家は逃げ場のない地獄だった。(泣き崩れる)

祐実：私たちだって、いついじめの標的になるか不安だった。

梨桜：怖かった。ほかにどうすることもできなかった。

祐実・梨桜・舞奈：教室は逃げ場のない地獄だった。(泣き崩れる)

果音：晴香やみんながどんなつらい気持ちだったかなんて知らない。でも、みんなはつらい気持ちを私にぶつけていたんでしょ。私は嫌なことがあっても何もできなかった。誰にも相談できず、逃げることもできず、犯罪までしてしまった。それでも我慢しろっていうの？

晴香は自分につらいことがあれば、私をいじめて、それでもつらいうって、大人に話して、今は助けてもらっているんでしょ。ずるいよ。

晴香：助けてもらってなんかないわよ。今は優しくしてくれている大人だって、どうせすぐ裏切るに決まっているでしょ。私だって、最後はどこにも逃げられないのよ。

(拍手)

#### (事例発表者(本荘))

私たち舟入高校、沼田高校演劇部は、広島弁護士会の弁護士さんたちと合同で演劇をつくり、公演するという活動を行っています。公演は毎年4月下旬に行っています。4年前から活動を始め、今年で4回目の公演となりました。今、見ていただいたのは、今年4月28日に広島市青少年センターで上演した「はばたけ！ピピオ4～へし折られた指揮棒～」のワンシーンです。この演劇は中学生を主人公にしたいじめがテーマの演劇です。いじめる側、いじめ

られる側、それぞれに複雑な背景があり、かかわった教師や弁護士たちが協力して解決を目指していくという物語です。脚本を弁護士さんが書かれ、高校生と弁護士さんがタッグを組んで、土曜日、日曜日を中心に約3ヵ月練習してつくりあげました。今日は私たちと一緒に劇に参加して下さった司法書士の掛先生もお越しくださっています。

#### (事例発表者 (佐々木))

こうした取組を行うようになったきっかけは、子どもの人権を考えるシンポジウムの一貫として演劇の上演を計画されていた弁護士会の先生方が舟入高校演劇部に「一緒にやりませんか」と声をかけてくださったことです。2010年4月、最初に上演した「はばたけ！ピピオ」は、虐待などが原因で居場所を失った子どもたちの緊急避難施設「子どもシェルター」をテーマにした劇でした。この劇がきっかけとなり、広島市に子どもシェルター「ピピオの家」が開設されました。私たちの劇が人々の心に響き、子どもの人権を守る活動につながった。そのことに大きな喜びと達成感、そして演劇の力を感じました。以来、毎回新しいテーマで子どもの人権に向き合う創作劇にチャレンジし続けています。普段とは違う大人の方々と一緒に劇をつくる活動を通して、演劇だけでなく、人権や社会、仕事といった様々なことを学ばせていただいています。

そして、何より弁護士さんや、舟入高校、沼田高校と一緒に活動することがとても楽しいです。1回目に主役を演じた舟入高校の卒業生は、自分も子どもの人権問題に携わる弁護士になりたいという目標を抱いて、現在、大学で法学を勉強しています。OBとしてかかわってくださる先輩、毎年加わってきてくださる弁護士会の新メンバーの先生方、そして新入部員、新しい仲間を迎えながら、劇団ピピオはますます羽ばたいていきます。来年4月にはパート5を上演する予定です。これからも頑張ります。

応援よろしくをお願いします。(拍手)

#### (知 事)

佐々木さん、藤井さん、木村さん、本荘さん、樽本さん、どうもありがとうございました。毎年、年に1回やるのですけれども、まさに子どもを取り巻く問題ということなので、すごくまじめなテーマですね。あまりに真剣すぎるテーマだと、ともすれば高校生には照れくさかったりすることもあると思いますが、そんなことはないですか。

#### (佐々木)

照れくさいとかはないのですが、いじめ問題が今年のテーマで、いじめられる側の演技とか、特にいじめる側の演技など、いつもやっていることではなくて、経験のないことなので、しかも、人を傷つける行為を自らやるというのには少し抵抗がありました。

(知 事)

シナリオを読んで役づくりをやっていく過程の中で、いろいろ考えることはありますか。

(佐々木)

はい。お客さん皆さんに見ていただくということは、自分たちでしっかり考えて、そこから自分たちが理解した上でやっていかないといけないと思うので、自分たちも劇づくりの上で、子どもを取り巻く問題に目を向けて、弁護士さんとも話をしながらやっていきました。

(知 事)

なるほど。ちょうどまたいじめは、大津の事件からいろいろな形で社会の関心と呼んでいるところでもあり、子どもをめぐる問題は本当にいろいろあって、今も例の呉の事件などもあったりして、いろいろなことが背景にあると思いますが、そういう活動を通じて、これは先輩がやられたのだと思いますが、ピピオの家はこの演劇がきっかけになったというのを、実は今、聞いて僕は初めて知ったのですけれども、ピピオの家というのはもちろん知っていたのですけれど、そういうふうに活動の広がりも生んでいるということで、素晴らしいと思います。

こうやって真剣に取り組んで、演劇ということ自体もすごくいろいろな意味合いがあると思いますけれども、こういう社会的なテーマをやることによって自らも成長しているのではないかと思います。皆さん、ごらんになってお感じになったのではないかと思いますけれども、すごく頼もしく見えますよね。演劇をまじめに取り組んで、我々はいつも子どもたちが未来をつくると思っていますけれども、やっぱり未来は明るいのかなというのを改めて思ったりしました。それでは、改めて今日この劇の一部を披露していただきました舟入高校演劇部の佐々木さん、藤井さん、木村さん、そして沼田高校演劇部の本荘さん、樽本さん、どうぞ皆さんもう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

2年生のみんなは来年も頑張ってください。ありがとうございます。(拍手)

#### 事例発表④

(知 事)

それでは、最後の事例発表に移りたいと思います。次は中学生です。

広島市立庚午中学校3年の山本匠研くん、橋本真子さん、木本貴翔くん、そして2年生の小林未南さんの4人です。庚午中学校は生徒と生徒がつながる生徒会活動を目指して様々なことにチャレンジしていらっしゃいます。その一つとして、地域と連携した取組である「庚午ボランティアネット」を設立されました。ボランティア活動を通じて、地域の方との交流

を深め、地域貢献の大切さや達成感を感じるとともに、地域の一員としての自覚を持つようになったということです。

今日の発表のテーマは、「目指せ日本一!あいさつの心を誇りに」です。それでは、よろしくお願いします。

#### **(事例発表者 (山本))**

皆さん、こんにちは。(「こんにちは」の声あり)私たちは庚午中学校の生徒会執行部です。庚午中学校は広島市西区にあり、生徒数は男女あわせて718人、創立は昭和22年と、歴史ある学校です。生徒はみんな元気よく、学校は活気にあふれています。部活動が盛んで、生徒の約9割が参加しています。卓球部やサッカー部、水泳部は県大会の常連校で、文化系では技術部が全国大会に出場しています。卒業生にはサッカー日本代表の榎野智章選手がいます。

本日は、私たち生徒が行っているとても大切な活動、あいさつ運動とボランティア活動の二つのことについてお話しします。

#### **(事例発表者 (橋本))**

まず、あいさつ運動についてお話しします。庚午中学校では、毎朝、生徒と先生、保護者の方々によるあいさつ運動が行われています。8時から8時15分の間、当番のクラスが正門付近に立ち、登校中の生徒に元気よくあいさつをしています。

また、地域の小学校にも出向いて、小学生と一緒にあいさつ運動を行っています。気持ちのよいあいさつから1日をスタートし、あいさつから心を通わせていきたいと思っています。

#### **(事例発表者 (小林))**

続いて、ボランティア活動についてお話しします。先ほどお話ししたあいさつ運動には、当番ではなくても参加している生徒もいます。また、校内清掃活動も行われています。

校外での取組について詳しくお話しします。庚午中学校には、庚午ボランティアネットという、学校と地域が連携したボランティア活動を行う仕組みがあります。地域の方々が中学生の力を必要としたときに、学校にボランティアを依頼します。学校では、生徒会の文化委員を通してボランティアの依頼の内容を紹介し、参加したいと思った生徒が申し込みをします。中には、人気があり抽選で決まるものもあります。

では、ボランティアの様子を紹介します。これは公園清掃や樹木の手入れをしているところです。

この写真は、庚午夏灯路です。私は庚午夏灯路にボランティアとして参加し、小学生がデザインしてくれた灯籠を並べ、灯をつけるまでを担当しました。地域の方々と一緒になってグループですので、いろいろなお話をし、庚午についてよく知れるいい機会になりました。

ステージでは、庚午中学校放送部による朗読発表や、野球部によるダンス発表が行われ、

風鈴なども展示されています。最初は地道な作業が多くとても大変でしたが、灯籠に灯をつけ終わり、美しく浮かび上がる文字や籠を見たときは、とても感動しました。

地域の方々から「ありがとう」と感謝の言葉を言われたときは、心からうれしかったです。この活動を通して、私は大きな達成感を味わうことができました。

#### (橋 本)

ボランティア活動には、公民館や小学校などで行われる行事のお手伝いもあります。その中でも私はグランドゴルフに参加しました。小学校で地域の方々と小学生で一つのグループをつくり、ゴルフをして競い合いました。遊びながら交流を深めるという活動です。実際に体験してみて、ゴルフが初心者私でも、地域の方々のわかりやすいアドバイスで上手に打つことができました。そのほかにもたくさんの地域の方々が準備をしたり、うどんをつくったり、商品を出したりと、私たち参加者を楽ませるために努力をしてくださったことを知ることができました。

グランドゴルフに参加して、地域の方々の力添えでいろいろな行事が成り立っているのだと実感しました。

また、改めて地域の方々の優しさに触れた1日でした。

#### (事例発表者 (木本))

冬にはもちつきボランティアがあります。僕は同じく冬に行われるとんどにボランティアとして参加しました。受付の係と、とんどをつくる作業組に分かれて活動しました。受付では、習字の作品としめ縄を受け取ります。そのしめ縄の解体作業は意外と大変でした。はさみでミカン、葉っぱ、縄の部分にそれぞれ分けていきます。しめ縄も次々と持ってこられるのでとても大変でしたが、友だちと一緒に作業をしたので楽しかったです。

とんどをつくる作業組は、地域の方々と協力して、受付で受け取ったものを運んだり、バランスを考えながら積み上げていきます。この作業は両方とも力仕事なので、とても疲れました。でも、地域の方々と話ながら仕事をしたので、楽しみながらできました。

自分たちがつくったと思って完成したとんどを見ると、大きな喜びと達成感を味わいました。

このような伝統行事を続けていくことはとても大変なことだと実感し、地域の方々の団結力を感じました。僕は祭りにもよく行きますが、そのような行事も感謝しながら楽しみたいと思います。

#### (山 本)

最後に、毎年7月に行われている草津車イス町点検ボランティアについて紹介します。このボランティアは、草津地区の歩道を実際に車いすに乗って移動し、移動しにくいところが

あるか調べます。画面の左の二つの写真は、実際に危険な箇所を見つけているところです。草津のまちには、車いすを利用している人にとって危険な場所がたくさん潜んでいることがわかります。僕はボランティアで車いすに乗って移動したとき、歩道と車道の間に段差があると、1人の力では到底上ることができなかつたり、歩道が傾いていると、とても危ないということを実感しました。

このボランティアでは、車いすで自分の住んでいるまちを移動するという、普段なかなかできない貴重な体験ができました。

また、世代を超えてグループになって行動し、いろいろな年代の方々との交流もできました。ボランティアというものは、人の役に立つことのほかに、人間関係を築いたり、新しいことに会うことができるよい機会だと思いました。そして、何より楽しい1日でした。

#### (木 本)

僕たちはボランティアを行うことで、地域とのつながりを実感しました。地域の中に庚午中があり、地域の方々に支えられながら僕たち庚午中学校の生徒は今を過ごしています。ボランティア活動を通して、地域の人たちとの関係をもっと深めていきたいです。

地域の人たちとつながるために、これからもあいさつを大切にしていきます。あいさつの心を誇りに、庚午中学校をみんなでつくりあげていきたいです。

これで庚午中学校生徒会執行部の発表を終わります。ありがとうございました。(拍手)

#### (知 事)

山本くん、橋本さん、木本くん、小林さん、ありがとうございました。いろいろな活動を通じて、これも中学生ぐらいだと気恥ずかしい気がして、つつい形だけの参加になりかねないところだと思いますけれども、皆さん真剣にやって、いろいろな気づきがあったみたいですね。車いすで行くと、道が傾いているだけで難しいとか、ちょっとした段差が大変だとか。

#### (山 本)

はい。車いすが傾いていると、傾いている方向にどうしても車いすが倒れて、歩道から落ちてしまって、ということがあって、それがとても危ないと思いました。

#### (知 事)

そうすると、町中でもいっぱい大変なところがあるというのがよくわかりますよね。

あるいは、とんどを手伝って、裏方がいかに大変か気づいたと。

(木 本)

そうですね。普通に見ているだけではそこまで大変さはわからないのですけれども、いざボランティアとして裏方をやってみると、結構苦勞しているんだなと。いろいろな気づきがありました。

(知 事)

そうですね。そうやって理解すると、そういうことをやってくれている人たちに対する感謝の気持ちもわいてきますよね。

そして、周りの人に対する感謝の気持ちがあると、地域の皆さんに対して自然とあいさつもできる。感謝の気持ちを込めてあいさつをすることで、また絆が強まって、ぐるぐるっと回っていくということが感じられました。中学生の皆さん、3年生と2年生の皆さんですけれども、しっかりと活動して、地域貢献を中学生なりにしていただいているのではないかと思います。

それでは、庚午中学校の4人の皆さんにもう一度大きな拍手をお願いしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

(司 会)

ありがとうございました。以上で予定の事例発表は終了となります。すばらしい発表を皆様、本当にありがとうございました。

## 閉 会

(司 会)

それでは、ここで湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

ありがとうございました。今、庚午中学の皆さんの気づきの中にもありましたけれども、いろいろな活動があって、前から見ていると、何となく見過ごしてしまうこともあるかもしれませんが、実際にやってみると、裏方さんは大変ですよね。今日の最初の井口・鈴が峰魅力づくり委員会の皆さんであるとか、あるいは佐伯区の「はなみどり」の皆さん、井口の場合には、過去を調べるということで、それを今の元気につなげていく。「はなみどり」の場合には、花を植えて、木を植えて、将来に向かって新しいものをつくっていきましょうという活動だと思うのですけれども、どちらにしても、すばらしい活動ですね。私も今日井口

の活動を見せていただいたのですけれども、ちゃんと看板もつくって、それぞれの場所にいろいろな説明が書いてあるわけです。その説明を考えたり、看板をつくったりするのも大変だと思うのですけれども、それがあるとみんな楽しめますよね。花がいっぱいになったり、あるいはすてきな木が植わっていると、これもまたすてきですね。これを人任せにしないで、自分ができる範囲でできることをやる。それによって、社会にインパクトが生まれてくる。そんな事例だと思います。また高校生や中学生もそれを見て、こんなふうになっているというのを理解して、またそれを支えていこうという気持ちが生まれるのではないかと思います。見ているだけではなくて、やっぱりちょっとやってみる。参画をする。その一歩前に行くかどうかというところで社会が大きく変わっていくのではないかと思います。

今日発表してくれた高校生の皆さんも、演劇でこうやって取り組むことによっていろいろな気づきを得て、きっと優しい大人になってくれるのではないかと思いますし、それだけではなくて、先ほどのピピオの家みたいな形で、実際に社会にインパクトを生んでいくということも起きます。

社会を変えていくのは、それこそ僕も県庁にいて、県知事という役をやっていますから、知事が変えてくれるのではないかとか、市長が変えてくれるのではないかとか、そういうふうに思われがちなのですが、実際には市民の皆さんが、学校や職場や地域、いろいろなところで普段より、思っていることだけではなくて、一歩何か前に進むことで大きく変わっていく。そんな事例を今日もたくさん聞かせていただけたのではないかと思います。

是非、また皆さんも今日のお話をお聞きいただいて、明日から、自分のいろいろな社会の中で役割があると思いますけれども、その中でちょっとだけ前に出てみる。ちょっとだけ、これまでと違う明日に向けての活動を進めていただけると、それが合わさると大きな力になって、新しい広島県、すばらしい広島県ができていくのではないかと思います。

それでは、今日発表いただきました4組の皆様にもう一度大きな拍手をお願いいたします。本当にありがとうございました。(拍手)

それでは、これで終了といたします。皆様、本当にお疲れ様でございました。ありがとうございました。(拍手)

#### (司 会)

以上をもちまして「湯崎英彦の地域の宝チャレンジトーク」を閉会といたします。ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、お手元にアンケートをお配りしていると思います。アンケートと地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしておりますので、ご協力よろしくをお願いいたします。

また、地域の宝ネットワークにおきましては、フェイスブックによる情報の交流も行っておりますので、是非皆様ご参加ください。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。(拍手)